

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	平成31年3月9日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search&list_list=true&PrefCd=44
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成31年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではあるが、利用者それぞれの嗜好に添えるような対応に心掛けている。また身体能力を一日でも長く維持する為に今できる事を最大限楽しく行っている。出来るだけ施設内にとどまらず季節を感じられるような庭造りにこころがけている。そして利用者・職員が一緒になって過ごす時間を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度より、1ユニット体制になり、利用者・職員とも、環境の変化を乗り越えるべく切磋琢磨しています。管理者・職員は初心に戻り、話し合いを繰り返す中で、法人理念6項目を念頭に、利用者第一の視点でサービスを提供しており家族とも連絡を密にし協力関係を構築しています。その一つが施設周辺の庭に四季の花や木を植え、春の花が咲き誇り、花の好きな利用者の目を楽しませ、暖かな気持ちになっています。職員と一緒に外気浴をしながら、お茶を飲み、日に何度も庭を散歩する利用者は、リハビリに繋がっており大変好評です。事業所はこの地に確固たる基盤を築き、地域交流に力を入れ、ますます高齢化・重度化する利用者の支えとして大いに期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着はほとんど出来ていない。朝礼で理念をひとつ取り上げ、共有・実践に向けて取り組んでいる。	法人理念「6項目」を、朝礼の申し送り時に唱和して共有に繋がっています。その中で毎日1項目を職員で話し合い、理念がより良いケアの実践に繋がられているか確認をしています。	事業所の体制も変わり、開設時の理念の見直しを検討され、地域密着型事業所の意義を全職員で深く考えるとともに、現状に即した理念を全員で検討されることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は挨拶・会話を近所の方と楽しむこともあるが、わずかな利用者でありほとんど交流できていない。	近くの有料老人ホームとレクリエーション活動と一緒に交流もありましたが、利用者の重度化にともない難しくなっています。小学校の登下校の際や飲み物の自動販売機まで散歩がてら行くことで、地域との交流も少しずつ出来ています。	利用者の、身体的な低下や高齢化により、地域に出かけることが困難になりつつある中で、近隣住民に挨拶や声かけを継続されることで気軽に訪問できる環境作りを行うことと、運営推進会議で地域のニーズを把握され事業所として出来ることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議であがった様々な意見・要望を職員で共有し今後活かしている。	運営推進会議では、家族・職員・利用者と、質問・意見・要望等を話し合い、より良い支援ができるよう行政・地域の外部からの助言も取り入れています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度必要な業務連絡は行っている。また、研修会で市町村担当者が参加している場合もあるが、取り組みを伝える事や協力関係を築くまでの関係性には至らない。	市町村担当者への業務連絡や情報等はパソコンで行っており、情報の共有が出来ています。利用者の健康推進に関係したアドバイスや情報等は、地域包括支援センターから受けており、関係強化に積極的に取り組んでいます。	運営推進会議に市の担当者、地域包括支援センター職員の参加を実現し、情報交換や協力関係を築かれることと、管理者が直接行政窓口に向き相談・指導を仰ぐことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度は身体拘束委員会を開いている。その中で今伝える必要性の高い内容を全スタッフミーティングの場で検証している。現在はスピーチロックに取り組んでいる最中である。	月に一度、身体拘束をしないケアの会議をケアマネージャーと全職員で行っています。指定基準の内容を確実に理解できているか、事例報告や意見を出し合いながら利用者の個別ケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ロッカールームにポスターなどを貼り意識付けをしている。また、スタッフも相互で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学ぶ機会を持っているが、スタッフは自ら情報を得よう心がけている。活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書をお互い見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくとともに、契約後も不具合があれば電話や面会時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会の際に意見、要望を伺いなるべく早く反映できるように努めている。	家族との面会時に、意見や要望を把握し利用者や家族の立場になって改善点を話し合い、サービスの向上に繋げるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで意見を聞く機会を持つようにしている。	管理者と職員の月に一度のミーティングの時に理念をもとにした運営のあり方について意見を出し合っています。利用者に関する気づき、職員の交代時や、勤務体制についての意見も出し合い、利用者へのより良い支援の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設設備や業務内容、職員配置など不具合があった場合には、出来るだけ早く対応するようにしている。管理者も職員の業務や悩みの相談にのり働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の勉強会や排泄ケアの講習に参加することで日々の勤務に役立っている。研修の情報は掲示板にあり希望すれば参加も可能である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ゆーふーネットなど新しい取り組みの開始に向けて交流の場に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動を注意深く観察し会話その他コミュニケーションや訴えを聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接会って話す機会を数回持ち、ご家族の気持ちを引き出せるようにしている。要望の結果や初期の本人の様子はこまめに連絡するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスはまず一歩から始め、達成できる喜びの共有ができるものを必要な支援として導入するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合う関係を大切に「その人らしさ」を支援していこうと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべての家族と関わりを持ってはいるわけではないが、毎月の施設便りの中で利用者の近況を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には今の症状を分かり易く伝え、面会や外出がスムーズにできるように努めている。	天気の良い日には、花の咲いている庭周辺や近所の馴染みの場所へ職員と散歩することがあります。家族が訪れて、食事やドライブ等利用者が行きたい場所にいつでも行けるように対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度は様々であるが、レクリエーションなどを通して利用者同士が関わりあうことでそれぞれの個性を伸ばし、自主性を大切に支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の利用終了後は、家族からの相談問い合わせがあった場合には丁寧に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食の好みや生活スタイル、干渉の度合いにおいても本人の言葉を職員で共有していくよう心掛けている。	利用者は生活歴や病状等で、好みや意向も一人ひとり違うので、本人のメッセージ動作をきちんと受け止める為、表情・動作による訴えを汲み取り、職員みんなで共有できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類から情報収集したのち、実際に接して情報を共有し、サービス経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付きも記入し、現状把握しやすいようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々で起こる心身の変化に皆で対応し、毎月利用者ひとりひとりについてモニタリングを行っている。	サービス計画表のプラン作成時、家族にアンケート用紙を送り、説明を行ったうえで意見を聞きプランに反映させています。個人記録をケアプランに添付することにより、より良い支援に繋げることが出来ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を見直し改革した、その事によってその日の申し送りや、毎月のミーティングの際、小さな気付きも多くなり実践に活かせるようになってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別を重要視したサービスに心掛けており柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームのとなりにある小学校・幼稚園の校庭では安心して安全な散歩をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態を的確に伝えられるよう医療連携に心掛けていると同時に家族にも連絡をとっている。	以前からのかかりつけ医の継続受診を支援しています。複数の医療機関(訪問歯科も含む)より週3~4回の往診が行われ、身体状況によってその都度往診や受診が行われています。訪問看護、訪問リハビリの支援も受けており、利用者の健康管理が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃の利用者の状況を把握し気付いたことを看護師に連絡・相談し情報共有しながら医療連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	利用者の入院の際には、施設での生活状況を情報提供するとともに、入院中の状態を把握するために面会や病院看護職員と話をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて、ご家族・場合によっては、本人・主治医と話し合い方針に添った支援の提供を共有している。	重度化や終末期支援のあり方や事業所の対応について指針を作成し、看取りに関しても説明と同意を得ています。利用者の状況変化の都度、医師・家族・職員で話し合い、方針を共有しています。	利用者にとってホームは家であり、職員も馴染みの関係が深くなっていく中で、家族同様の気持ちを持って接しています。特に心の面で利用者・家族に安らぎを与えることを主眼とする支援を心掛けています。全職員で方針を共有し勉強会等で意識向上に努めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力は身に付いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っているが、地域との協力体制は築けていない。	年2回・日中・夜間帯を想定した避難訓練を行っています。職員をモデルに寝たきりの利用者の避難を実践しましたが、反省・課題等が見つかり、次の訓練に反映するよう取り組んでいます。	今後は地域の協力及び更なる連携を図る為に、運営推進会議で議題にあげ依頼をするとともに、災害時の協力体制を築いていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドは損なわないように、言葉かけに注意し対応しているが、全職員ではない。	法人理念に「尊厳のある生活の重視」を掲げ、言葉かけ、対応等十分注意し、職員間で話し合い、家庭的な雰囲気大切に、接遇面での徹底を目指しています。	接遇研修を行う中で、人生の先輩に対しての言葉遣いには特に注意を払う等、全職員が共通の認識を持って支援されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、本人の希望を引き出せるような声かけを職員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースで過ごしてしまっているが、利用者によってはその場の希望に応じた過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によっては好みの衣類を選んだり、訪問理容の際希望を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に片付けや準備が出来たらと望んでいるが、今はできていない。	食事は外注し、調理した物を配膳しており、ご飯と汁物・おやつ・行事食等は事業所で手作りをしています。利用者の嗜好も考慮し、お寿司や食べたい物の希望があれば提供し楽しい食事を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂取不足になりがちな方には、好みの味やゼリー・かき氷など様々な形態を工夫し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内の歯磨きへの声かけ誘導とともに不十分な場合は、介助している。重度の利用者に対しては、こまめに保清している。また、週一回の入れ歯と歯ブラシの消毒を決めて実行している。状態に応じて歯科訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握する努力をするとともに状況に応じたその人に合った対応をしている。	利用者一人ひとりの排泄状況や水分及び食事状況を管理し、適切な排泄支援を行っています。問題事例の利用者もあり、医師と相談し夜間の対応等、適切な支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、ヨーグルトやオリゴ糖などの食品や体を動かすレクに取り組んでいる。排便状況をノートで日々把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分で入浴できるように対応している。	利用者の中には朝一番に入浴される方、午前・午後入浴される方、入浴剤を入れる方等、希望に合わせて臨機応変に入浴支援を行っています。重度化した方には職員2名対応で支援する場合があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたいときに休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を申し送るとともに症状の変化などがあたら記録し、薬の内容については掲示して確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と利用者が一緒にできることはしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩など戸外にでかけられるよう支援している。地域の人々の協力は得ていないが、交流は心掛けている。	日頃より散歩やドライブ等の外出を支援しています。施設の敷地内の庭には四季折々の草花が咲きほこり楽しみながら外気浴を行い、気分転換を図っています。花火大会・地域行事・花見・家族の協力で外食等の支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できるご利用者は現在いないため、所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご利用者からの希望があった場合は、その扱いは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家庭的な雰囲気のある家具やソファを置き、季節や懐かしのレコードジャケットを飾り、心地よい空間作りをしている。	みんなで過ごすことの多いリビングは職員と利用者で一緒に作ったお雛様が飾られ、自然の光が入り、テレビを観る人・ソファで談笑する方等居心地の良い空間になっています。庭には四季折々の花や木が沢山植えられ、季節を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花を好きな方も多く、四季折々の花を楽しんでもらえるように庭にテーブル・椅子を配置し、お茶を飲みながら楽しんでいる。お気に入りのソファをホールに置きすごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを自由に持ち込んでいただいている。	家族と相談の上で、使い慣れた物を活かしくつろげる空間を作っています。寝たきりの方の部屋は、時計や家族写真・ポスターが横になっている方の目線に合わせ掲示し配慮されています。居室で自由にテレビ鑑賞をされている方等、家庭的で居心地の良い環境が提供されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、部屋の表示やトイレの表示などその都度工夫して、ご利用者が見て分かるような表現や高さにしている。		